

省力栽培技術の導入による小菊の生産拡大

東近江農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

J Aグリーン近江小菊生産出荷部会では、市場出荷を中心に生産販売に取り組んでこられてきましたが、近年は部会員の高齢化により会員数が減少し、栽培面積・出荷量とも減少していました。一方、市場からは生産拡大を求められており、市場の信用を獲得し、有利販売につなげるにはJ Aとしても出荷量の増加が課題でした。生産拡大を進めるためには新規生産者を募り市場出荷者を増やし、1戸当たりの栽培面積を拡大する必要性がありました。

そこで、平成24年度は、まず新規生産者や栽培歴の浅い部会員が新たな市場出荷者となるよう育成支援を行い、4名が市場出荷されました。平成25年度は、引き続き新たな市場出荷者の育成支援を行うとともに、1戸当たりの栽培面積の拡大を図るため、省力的な栽培管理技術の導入ならびに次年度の新規栽培希望者掘り起しについて支援を行いました。

【普及活動の内容】

平成25年3月に栽培研修会を開催し、栽培面積の拡大に向けた省力的な栽培管理技術（マルチ栽培、定植前摘芯、整枝・下葉かきの省略等）を提案しました。4月には提案内容に基づいた現地研修会を開催し、新規生産者6名をはじめ部会員が省力的な栽培管理を実施できるよう誘導しました。栽培期間中、病虫害防除や中間管理などの栽培研修会を開催するとともに、新規生産者を中心に個々のほ場を巡回し、適期に管理作業が行われるように努めました。7月には、省力栽培に取り組まれている県内先進農家で視察研修を行い、栽培管理や作業体制など規模拡大の参考とすることができました。収穫前には出荷研修会を開催し、品質の揃った小菊が出荷できるように適期収穫と選別・調製・結束・箱詰め方法等について、出荷者の意識統一を図りました。

また、事務局のJ Aと新規栽培者掘り起しについて打合せを行い、J A広報誌等により栽培希望者を募集し、応募者に説明会を開催しました。説明会では、小菊栽培の魅力・栽培の概要・経営試算や、県花き園芸協会きく部会による種苗確保・挿し穂供給の取り組みについて説明しました。

【普及活動の成果】

以上の取り組みの結果、新規生産者6名が市場出荷され、部会の出荷本数も前年比1.8倍に増加しました。

また、部会員の省力的な栽培技術の習得も図れ、市場出荷者の多くが次年度の栽培面積を拡大される予定です。さらに、8名の方が部会に加入され、平成26年度から栽培を開始されるなど、小菊の生産が拡大しました。

